市報 ぎょうだ No. 867
平成30年9月1日 発行

行田 歴史系譜 294

歴史を語るこの〝いっぴん〟
～博物館の収蔵庫から～ 30

行田音頭のパンフレットとレコード

行田市郷土博物館所有

昭和4年(1929)10月に起こったウォール街の株価の大暴落が引き金となり、世界大恐慌が始まりました。翌年には日本にも波及し、1月に実施した金解禁の影響も加わり、昭和恐慌と呼ばれる深刻な不況となりました。昭和6年下半期の忍商業銀行の業務報告書には「足袋は下落の一途をたどり商賈(しょうこ)(商人)の受くる影響甚大にして意気沈滞を感する」とあるように、この不況は足袋産業にも大きな影響を与え、生産量は伸び悩み労働争議も起こりました。

昭和8年6月、作詞西條八十、作曲中山晋平による東京音頭が発表されました。この曲は東京が15区から35区へと拡大し、人口550万人の「大東京」となったことを記念して、前年に作られた丸の内音頭の歌詞を変えて制作されたものです。レコードが発売されると空前の大ヒットとなり、各地の盆踊りで踊られるようになりました。

行田音頭のパンフレット

行田音頭のレコード

忍町長の高城駿も行田足袋の名を全国に広め、不況の忍町を明るくしようと「行田音頭」制作を思いつき、当時忍町に莫大な寄付をしていた大澤龍次郎に協力を仰ぎました。作詞作曲は東京音頭と同じ西條・中山に依頼し、昭和9年9月4日に忍町公会堂で2人を招いて、完成披露会が行われました。写真の三つ折りパンフレットはその当時のもので、表紙のデザインには足袋と忍城が描かれ、内側に10番までの歌詞、外側に楽譜が掲載されています。また、歌手に三島一声と小唄勝太郎を起用してビクターからレコードも発売されました。

行田音頭の歌詞には一番と五番に足袋が登場する他、「秀衡松(ひでひらのまつ)」「五十小橋」「沼干(ぬまひ)」など当時の忍町の代表的な風景で、現在では見ることができなくなったものが歌われています。西條八十は著書『大衆歌謡のつくり方』の中で、一旅客の詩人の方が敏感にその土地の面目をつかめると記しています。昭和前期の世相を背景として制作された行田音頭は、当時の忍町の様子を描写した史料ともいえるでしょう。

(郷土博物館　鈴木紀三雄)

つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～㉑

南河原昔の子どものあそび保存会

昔から伝わる遊びを伝えながら、地域の子供たちの健やかな成長と世代間交流を図っているのが「南河原昔の子どものあそび保存会」です。

同会は昭和60年に設立され、現在は11人で活動しています。毎月2回、南河原小学校を訪問し、1、2年生を対象にお手玉やだるま落とし、けん玉など約10種類の遊びを教えています。

毎回、会員が訪ねてくるのを楽しみにしている子供たちは、回数を重ねるうちに徐々に一人でもできるようになるそうで、会員の皆さんはもの覚えの早さに驚かされているそうです。そして何よりも、子供たちの楽しく遊んでいる姿が、活動を続けるための元気の源になっているとのことです。そんな子供たちから送られてくる感謝の手紙は、会員同士で読み合い、大切に保管しています。

「学校の外でも子供たちと会うと、昔遊びが上手にできたと話し掛けてくれるんですよ」とうれしそうに話す会長の田中英夫さん。昔の遊びが地域に笑顔をもたらし、さらに世代を超えた貴重なつながりが、子供たちの心に地域への愛着と優しい気持ちを育んでいくことでしょう。

【会長】田中 英夫　【電話番号】557―0989

優しく丁寧に教える会員の皆さん

今月の表紙　8月10日、第25回夏休み一日消防士体験が消防本部で開催されました。真夏の太陽が照りつけ、気温が35度近くまで上がる中、参加した市内の小学生88人は防火衣着装訓練や放水訓練など消防士のさまざまな仕事を体験しました。熱中症対策も万全で、しっかり水分を取りながら元気よく訓練に取り組んだ子どもたち。将来、この中から市民の生命と財産を守る立派な消防士が現れるかもしれません。

■市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
■市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
■市報をデイジー版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ
市報ぎょうだは再生紙を使用しています

■編集・発行／行田市総合政策部広報広聴課
〒361―8601 行田市本丸2番5号
TEL 556―1111 FAX 550―2116